

1 単元名 【球技】 ネット型 バレーボール  
「アダプテッドスポーツ」から共生社会へ

2 単元について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、これまで体育分野全般において、技能が向上していく楽しさやゲームの勝敗に喜びを味わい、それぞれの球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力を理解しながら技を習得してきた。その際、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自分の考えたことを他者に伝えることができるように取り組んできた。その結果、下に示す実態調査のとおり、体育分野の学習において興味や関心をもって積極的に取り組み、技能習得や一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配りながら、新たな技能や運動感覚を身に付けることができるようになってきた。また、生徒同士が互いに改善点を見だし、見取る活動から課題解決を図ることもできるようになってきた。

一方で、生徒によっては運動感覚や技能の個人差が大きく、他者への関わりを気にせず思い切り運動することだけに興味をもつ生徒や、授業の様子を観察するのみの生徒、基本的な技能が十分に身に付いておらず、運動の楽しさを技能面のみで考える生徒も見られる。また、運動時間に関する調査からは、運動の習慣について個人差が見られる現状を把握することができた。

運動や課題解決に関する生徒の実態調査					
質問項目	好き	どちらかといえは好き	どちらかといえは嫌い	嫌い	
1 身体を動かすことは好きですか。	19	7	7	3	
2 友達と協力して、課題解決を図ることは好きですか。	15	13	6	2	
3 友達と協力して、課題解決を図る上で大切にしていること。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の思いを受け止める。(25)</li> <li>自分の意見を伝える。(22)</li> <li>言葉に気を付ける。(13)</li> <li>対話を通して、互いの考えを理解する。(8)</li> </ul>				
4 「アダプテッド」という言葉を聞いたことがある。	ある…2		ない…34		
5 活動をする際に、高齢者や障がいのある人、言葉の通じない(外国籍)方などと、一緒になって活動する機会があった場合、あなた自身が大事にして活動したいと思うこと。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを図る努力(24)</li> <li>親交を深める。(16)</li> <li>表情を大事にする。(4)</li> <li>相手を理解する(3)</li> </ul>				
運動時間に関する生徒の実態調査					
質問項目	2時間以上	1~2時間	30分~1時間	15~30分	0~15分
6 1日の運動時間について	8	14	7	4	3

(令和5年5月9日実施 茨城大学教育学部附属中学校 第2学年1組36人)

(2) 単元観

以上の実態から、自身の体力向上や課題発見・課題解決のためのみではなく、他者への共感や課題に対する方策を考えて実行する力を伸長する必要性を捉えた。さらに、既習の知識や技能を活用しながら、共生社会の実現に向けた豊かなスポーツライフにつなげるための基盤となるようにしたいと考え、1年生時に既習したバレーボールを教材とする本単元を設定した。

バレーボールは、ネットをはさんで相対するチームが、サービス、レシーブ、トス、アタック、ブロック

などの技術を用い、3回以内に相手コートに返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うスポーツである。ネットをはさんで行うことによって、混戦したボールの奪い合いがなく相手に邪魔されない。そのため、自分のチームに適した作戦を組み立てることができ、実践しやすい。プレイヤールールも理解しやすく、チーム全員がボールに触れる機会があり、ラリーを続けることができたときには、得失点に関係なく全員で楽しさを味わうことができる。そのため、個々のボールのコントロール技能が要求される競技でもある。また、ボールをつないで得点をするためには、仲間と協力するチームワークも求められる。

そこで、共生社会と体育という視点から、アダプテッドスポーツ（適応するスポーツ）として、バレーボールをベースに、生徒と一緒に創り上げる活動を取り上げたいと考えた。

アダプテッドスポーツの概念は、「障がいなどのある人がスポーツを楽しむためには、その人自身とその人を取り巻く人々や環境をインクルージョンしたシステムづくりこそ大切である」という考えに基づいている。ノーマライゼーションの具現化や共生社会の実現を図るにあたり、インクルーシブな体育の実現が期待されている。健常児と障害児がともに行うインクルーシブ体育は、単に体育やスポーツを一緒に行うというのではなく、グループ編成やルール、教材・教具などに配慮された環境で行うものである。<sup>1</sup>

授業を創りあげていく過程を通して、生徒が面白いと感じる活動にするためには、障がいのあるなしにかかわらず、生徒相互のコミュニケーションを図る必要がある。特に、障がいのある生徒に対して、自分の身体状況を知り、それを周りに伝えることも求められることから、自己理解と相互理解を深めることができるようにする。

### (3) 指導観

指導にあたっては、課題解決をするために、生徒一人一人が合理的な運動の仕方を理解して、ゲームに取り組んでいくことができるようにしていきたい。まず、グループの実態に応じて、バレーボールをどのように変化させたゲームにするかをそれぞれのテーマを中心に据え、試行錯誤しながら考える時間を保障する。

次に、ネット型スポーツの特性を踏まえて、ボールの捉え方やボールコントロールの必要性についてのポイントを改めて発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全などについてのグループの取り組み方の課題を見いだしたりできるようにする。さらに、できるだけ多く、ボールに触れることができるよう活動時間を設定する。生徒の活動が他の生徒の課題へのヒントとなるように、運動の取り組み方を工夫できるようにする。そのために課題解決の一助として、タブレット端末を用いて調査や動画撮影を行い、自分たちの姿を視聴することでルールの変更意図をより明確にできるようにしたい。また、総括的評価のポイントや場の設定の工夫など、生徒が可視化できる掲示物を準備し、生徒の課題解決がスムーズに進められるようにしていきたい。

これらの学習を通して、障がいの程度や発達段階、学習段階に適した課題を設定したり、運動の進め方や場づくりの方法を選んだりしながら、「誰もが楽しく活動できるバレーボール」を創り上げていく。また、特別支援教育の専門家のアドバイスを得る機会を設けて修正していく活動を取り入れ、多面的な見方・考え方を新たに知ることによって、スポーツを通じた共生社会の理念に触れ、その実現につながる学習機会としたい。

さらに、スポーツ全般の意義・価値について考える・捉える場面を設定し、段階を経てのステップのよさや協働的な学びのよさを実感できるようにしたい。また、他者とのコミュニケーションをとることで、多様性を大事にする資質・能力を育む学習活動から、過程を評価することを大事にし、スポーツの価値として人々が生涯健康でいられるツールとしてスポーツに親しむことの価値への気付きにつなげたい。

<sup>1</sup> 中央法規 池田千紗・安井友康・山本理人 合理的配慮にも活用できる！アダプテッドスポーツで誰もが主役の楽しい体育

### 3 単元目標

- 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をできるようにする。 [知識及び技能]
- 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 [思考力・判断力・表現力等]
- 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 [学びに向かう力、人間性等]

### 4 単元（題材）の学びの価値とそれを実感させるための手立て

#### (1) 単元（題材）の学びの価値

## Physical Literacy を高めるって気持ちがいい！

「Physical Literacy」とは、身体活動を通して気付きや理解によって、自らの身体能力を向上させ、自己肯定感を生み出し、その価値を実感することで、身体活動へ参加する動機を生み出すこととされ、諸外国でも着目されている「体の賢さ」という概念である。これは身体活動やスポーツへの参加を促すだけでなく、自分の人生を生き生きと楽しみながら生きていくために必要な能力という意味も含まれている。保健体育の授業を通して、技能の向上や体を動かすことで、心地よさを味わうことだけでなく、他者と協働することを通して、自己肯定感を高め、自他の健康に関する課題発見や解決を通して自分の今後の生活に生かすことで、爽快感や達成感を味わったりしてほしいという願いを込めて、本学びの価値を設定した。

そこで、本単元では、自分たちのグループ内に障がいのある友人がいると仮定し、「誰もが楽しく活動できるバレーボールを創り上げる」活動をしていくことで、共生社会の理念に寄り添うために必要な多面的な見方・考え方、他者理解をしつつ、生徒自身が新たな概念を見いだせるようにしていきたい。

#### (2) 単元（題材）の学びの価値を実感させるための手立て

##### ① 生徒にとって未知なるアダプテッドスポーツの実践化

「どのようなルールがあったら、みんな楽しく活動することができるだろうか」と、今までの授業の中で生徒に問いかけた時、生徒は自分の周りにはいる健常者である生徒のことだけを考えて、ルールづくりをしてきた。だから「障がいのある」人が行うスポーツ＝「障がい者スポーツ」と捉えていることが多いだろう。しかし、現代は多様な他者とともに生活することが認知され、現中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年7月）にも「年齢や性別及び障害の有無にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する」と改善の具体的事項にも記載されている。本年度はここに着目し、授業づくりの根幹から生徒と共に考えられるようにする。そのために、附属特別支援学校や茨城大学特別支援科学コースの学生と連携し、Zoomを活用しながら自分たちの校種以外ではどのように授業を行っているかを調査したり、自分たちが考えたルールや活動内容について専門的な意見をもらったりしながら授業を構成していきたい。

##### ② 社会の在り方を構想する学習活動の充実

GIGAスクール構想が打ち出されてから4年。1人1台学習用タブレットや校内の通信環境も整い、各教科等で様々な活用法の蓄積がなされている。本校保健体育科でも本年度からより一層、授業内で活用

していくこととした。そこで、以下の2つを使いながら、思考したり判断したりすることの面白さや、友達と共に考えられることで得られる価値観の共有などを通して、Physical Literacyを高めていけるようにする。

### I ロイロノートの活用

本校ではロイロノート School を利用している。学習履歴の蓄積や協働学習、思考の可視化などに優れているアプリケーションである。単元のガイダンスの時に単元の目標や評価規準を共有したり、単元の見通しを立てたり、単元に応じた準備運動を作成したり、協働学習の一助として資料の共有やプレゼンテーションに使用したりすることに活用している。学習の過程を見直しながら学習を進めていくことでより深い思考につながり、それが実技で成功した時には爽快感に繋がるだろうと考える。

### II デジタル学習カードの活用

本年度よりデジタル学習カードを採用している。生徒の提出や教師側の回収が容易になるだけでなく、生徒自身が授業時間内や家庭での復習や記入に活用できることに有用性があると感じた。そして、学習したことを家庭で情報共有することや実生活に生かすことできるのではないかと考える。

## ③ 対話的な学習活動の確保

### I 男女共習型チーム構成

男女共習に関して提言された時から体力・体格差や単元の取り組みやすさなどの問題が取り沙汰されていたが、「多様な他者」と協働することを鑑み、今までの取組を見直し、男女共習を積極的に導入することとした。今までの同性同士の情報交換に加え、異性を交えた情報交換が加わることで、技能の向上だけでなく、様々な捉え方を知り、共有することができる。協働学習に必要なコミュニケーション力も身に付くと考える。

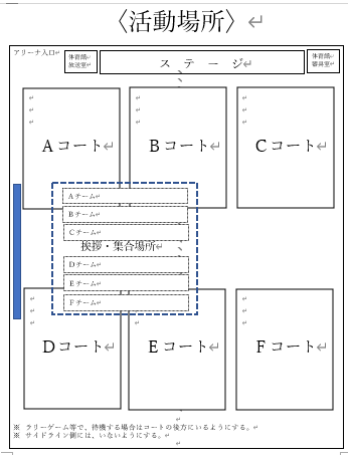
### II セルフワーク、ペアワーク、チームワーク、クラスワークでの活動

独自に考えた三つのワーク（セルフワーク、チームワーク、クラスワーク）に、ペアワークを取り入れた四つのワークを目的と活動内容によって使い分けながら、学習を進めて行く。自分自身で取り組むこと、互いに見合いながら技能の向上や考えを深めること、自分たちのチームの課題を時には動画を撮影して分析しながら発展させること、考えや学習活動の成果をクラスで共有することでよりよい学習環境となり、保健体育科の設定した学びの価値に繋がるのではないかと考える。

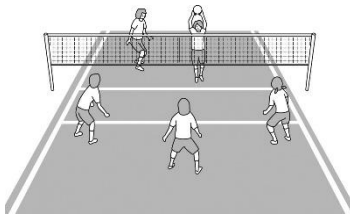
特に、クラスワークでは話し合い活動をより活潑にさせたい。多面的な視点で見る・考える場面として、これまで自分になかった考え方や感情、他者への温かな配慮など、これから大人になっていく過程の中で身に付けてほしい資質である。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間		○…評価規準【評価方法】	知・技	思判表	主体的	学習内容・活動	○指導上の留意点 ◎規準を実現するための手立て ★単元（題材）の学びの価値を 実感させるための手立て
次	時						
1	1	① 技の名称や行い方，運動観察の方法，体力の高め方などを理解している。【ワークシートの記述の確認】	①			○ オリエンテーション ・習得技術の確認 ・知識の学習 ・学習カードの活用 ・準備・後片付けの仕方 ・グルーピング ・アダプテッドスポーツとしてのバレーボールの授業づくり	◎ 学習の進め方や知識に関わる部分を明確にすることで、学習の見通しをもつことができるようにする。
	2	① 技能などについて，自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。【学習カードの記述の確認】				①	1班 視覚障害 2班 聴覚障害 3班 運動障害①（脳性麻痺） 4班 運動障害②（脊髄損傷や欠損） 5班 内部障害 6班 知的障害
2	3～5	① バレーボールに自主的に取り組み、よいプレイを讃えようとしたり、互いに助け合い教え合ったりするとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。【学習カードの記述の確認と授業の観察】	①		①	○ セルフワーク ○ ペアワーク（感覚つくり運動） ・キャッチボール ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ○ ワーク（段階的なラリー練習） ・円陣パス ・ラリーゲーム ○ チームワーク ・定位置での動き ・空いた場所への攻防 ・アダプテッドスポーツとしての取組（ルール構築）	◎ 障がいのある人が同じグループにいたるときに、どのようなことが必要なかを考え、場の設定や教具、ルールの構築をしていく活動ができるようにする。 ○ 多角的な見方・考え方で「誰もが楽しめる」授業づくりを通して、インクルージョンという理念に触れていくことで、共生社会への実現の礎となるようにしたい。 ★ 発見したことや気付いたことを全体にシェアできるような場面を設けることで、技やプレイの質、仲間との関わり方、ルールの確認など、安全上の留意点などの発見した課題を合理的に解決できるよう知識を活用できるようにする。



○ チーム内での課題をもとに自己の考えたことを整理して、他者に伝えることができる。  
【発表内容】



6  
本時

3

②

- 1 場の準備設定
  - ・ランニング5周
  - ・グループ毎に準備体操

2 本時の学習課題をつかむ。

誰もが楽しめるバレーボールをするにはどんなルールが適しているのだろう。(中間発表)

3 各グループから提案発表

- ・1班 視覚障害
- ・2班 聴覚障害
- ・3班 運動障害①(脳性麻痺)
- ・4班 運動障害②(脊髄障害や欠損)
- ・5班 内部障害
- ・6班 知的障害

4 専門家からのアドバイスを受けて、ルールを修正する。

- 〈チームワーク〉
- ・ルールの修正
- ・ラリーゲーム

5 グループごとにスペースを活用したプレイについて、課題改善を図る。

- ・グループ内で5ポイントマッチを行い、合計で5回戦を実施する。
- ・新たな自己の課題点を見いだす。

6 グループの改善点を見つけて、報告会で全体に伝える。

- ・気付いたことを全体に共有する。
- ・グループ→全体へと広げる。

7 学習のまとめと振り返り

- ・できるようになったこと
- ・次回に向けて頑張りたいこと
- ・学びの価値について見いだしたこと。
- ・やってみたいと思うアダプテッドスポーツのバレーボールを皆で選択し、次回の大会で運営することを伝える。

○ 他者理解を踏まえた活動を通して、何のために実施するかを考えて取り組めるように支援する。

○ BGMを流して、運動への意欲を喚起する。

○ 勝敗や競技成績に重きを置くことはせずに、能力の低いものを排除したり、攻撃したりする気持ちが生まれてしまう危険性があることに留意する。

○ 器具の安全面について確認するとともに、健康観察を徹底する。

○ 既習事項や掲示資料を参考に、「誰もが楽しめる」ルールであることを意識できるように促す。

◎ グループ内で、タブレット端末を使って互いの動作を撮影し合って、活動の様子を確認する。その時に、撮影する角度や体のどの部分に着目するかについても助言する。

○ オンラインでつながっている専門家から、生徒の発表を通して、専門的見からアドバイスをもらい、自分たちで考えたバレーボールのルールに加除修正を加えて行けるように助言する。

★ ロイロノートを活用し、新たな情報を整理して、次時の学習活動に生かせるようにする。

◎ ゲームのルールのポイントを全体にシェアできるように、動画を使って説明する。

○ ゲームとしてのうまくいかないチームには、大型モニターに動画を映し出して、クラス全員で競技の様子や補足しなければならない点など協議できるようにする。

4	7・8	<p>② 自分たちが考えたルールでのゲームができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、誰もが楽しめるバレーボールを実技することができる。</p> <p style="text-align: center;">【授業の観察】</p> <p>② 自他の健康・安全を確保しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【授業の観察】</p>	②	<p>②</p> <p>○ 自分たちが考えたバレーボール大会を開こう</p> <p>○ 大会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールの確認</li> <li>・ 審判</li> <li>・ 得点</li> </ul> <p>○ 単元のまとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロイロノートにある学習カードに記入する。</li> </ul>	<p>◎ 安全に留意して、大会を行うことで、できるようになったという喜びを味わうことができるように助言する。</p> <p>★ グループ内での対話を通して、情報共有を図り、様々な見方・考え方を知ることによって新しい概念を捉えることができるように促す。</p>
---	-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

